

学校の概要(平成15年4月現在)

東京都 文京区立 駕籠町小学校								
	1年	1年	3年	4年	5年	6年	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	6	9
児童数	27	20	23	15	19	18	122	

実践研究の概要

1. 主題(テーマ)

まなび みがき かがやく子 ——— 一人一人を生かす算数指導の工夫 ———
--

1. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、全学年とも算数を中心に研究を行った。 <p>教科の重点</p> <p>算数・・・見通しをもち、筋道を立てて考える力をつける。課題や展開の工夫により、数理的な考え方のよさを知り、生活に生かせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なお、研究授業については、下記の教科・内容で実践を試みた。 <p>1年生 算数 (ひきざん(2)・10のまとまりの考え方をおさえる)</p> <p>2年生 算数 (100より大きな数をしらべよう・十進法の考え方)</p> <p>3年生 算数 (かけ算の筆算・既習の加法減法乗法の活用)</p> <p>4年生 算数 (計算のやくそくを調べよう・工夫して計算する)</p> <p>5年生 算数 (小数のかけ算とわり算を考えよう・小数倍の考え方)</p> <p>6年生 算数 (分数の計算・結合 分配法則の活用等)</p> <p>指導者の体制から考慮して、「すくすく」(補充・定着)「ぐんぐん」(定着・発展)の二つのコースに分かれて習熟度別指導を行った。低学年では部分的に取り入れたが、中・高学年では一斉指導と習熟度別学習とを単元に応じて取り入れ、児童自身に選択させるようにした。</p>
--

(2) 年次計画

平成
14
年度

テーマ 「まなび みがき かがやく子

——一人一人を生かす指導法の改善——」(算数・国語)

仮説 一人一人の実態にあった支援計画を立て、学習過程や形態を工夫すれば、学びの定着や深化を図ることができるであろう。

研究内容と方法

(1) 研究内容

目指す子ども像の検討

「学び」「共生」「深化・発展」という視点から、目指す子ども像について検討した。

一人一人が生きる指導法の工夫

一人一人の実態把握

- ・既習事項の定着の様子を明らかにする。
- ・興味・関心・思考を把握し、予想される反応と手立てを検討する。

学びの楽しさを味わう学習過程の工夫

- ・教材の本質を明らかにする。
- ・学びの楽しさをもたせる学習問題の開発と導入の工夫
- ・一人一人の考えを引き出し、相互に学び合い、高め合う展開の工夫
- ・自己をみつめ、次なる課題に取り組むまとめの工夫

学びの定着・深化を図る学習形態の工夫

- ・習熟度別学習の試み

しっかりコーナー

じっくりコーナー

チャレンジコーナー

- ・課題別学習

学びの定着を確かめ指導に生かす評価の工夫

- ・教師による評価

指導内容に関する診断的評価

ノートから評価

授業中の反応による評価

- ・児童自身による評価

意欲・興味・関心の傾向・成就感

モジュール学習の時間の確保

毎朝始業前の15分間を「たけのこタイム」として、算数・国語の補充的な学習および発展的な学習を行う。

- ・全教職員による複数教授
- ・年間計画の作成と改善

(2) 研究方法

研究授業により、学習展開の方法や支援のあり方について検討する。
児童の実態把握のしかた、診断的評価のあり方について検討する。

平成
15
年度

テーマ 「まなび みがき かがやく子

——— 一人一人が生きる算数指導の工夫 ——— 」

仮説 一人一人の習熟度にあった学習形態を工夫し、支援計画を検討すれば、筋道を立てて問題を解決する力がつくであろう。

研究内容と方法

(1) 研究内容

児童の実態把握の結果を指導に生かし、指導方法の改善に努める。

児童の意欲や理解度に合わせ習熟度別学習につなげるとともに、その学習形態のあり方について探究する。

(2) 研究方法

全校で実態調査を4月・2月の2回実施し、実態把握に努める。

学習内容の理解・学習に取り組む様子・意欲等について、1年間を通して追跡し、定着の様子を確かめる。

平成
16
年度

テーマ 「まなび みがき かがやく子

——— 一人一人が生きる算数指導の工夫 ———

仮説 習熟度別学習や問題解決型の指導を積み重ねれば、学びの楽しさが味わえるようになり、思考力を高めることができるであろう。

研究内容と方法

(1) 研究内容

平成15年度の研究の上にさらに研究を深め、習熟度別学習を中心とした教材や学習問題をまとめる。

指導方法を改善し、自ら学び考える子どもの育成を図る。

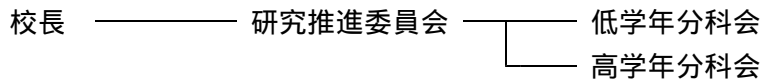
(2) 研究方法

研究授業により、一人一人の子どもの変容をとらえる。

3年間の研究をまとめ、研究成果を普及する。

(3) 研究体制

研究推進委員会を置き研究の方向を探るとともに、講演会・研究授業等の企画・運営をする。



平成15年度の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

一人一人の実態を把握し、つまずきの予想を立て指導計画を練ることにより、確かな理解と定着を図ることができた。

多様な方法で解決することにより、まなぶ楽しさを感じることができるようになった。(児童へのアンケートによる。)

毎月1回の参観日・及び年度末の学校評価(外部評価)のアンケートには、一人一人のペースに合わせた学習の様子や意欲的に授業に参加していることを評価する保護者の声が寄せられている。

コース別の指導により、自己評価力が向上し、達成感を味わえるようになった。

2. 今後の課題

課題

数学的な思考力を伸ばす指導の工夫をさらに進める。

補充問題及び発展問題の開発を進める。

TTの講師との事前事後の打ち合せの時間を確保する。

評価の方法について、より具体的な工夫をし、指導に反映させることができるようにする。

学力把握のための学校の取り組み

単元ごとに診断的な評価を行って、指導・支援計画に生かした。

定期的に(年1~2回)実態調査を行い、既習事項の定着度について確かめる。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及について

14年度の研究成果については、リーフレットを作成し、区内幼小中学校および校内の保護者に配布し、普及を図った。

ホームページ作成は、13年9月である。区の研究奨励校として総合的な学習の時間の成果を掲載してきた。現在は、フロンティアスクールとしての情報を記載し、本年度の中間発表会の案内なども載せている。

4月・2月に全学級が算数の授業参観を行い、フロンティア校の取り組みを伝え、保護者の理解を得られるようにしている。

平成16年2月に、保護者・地域を主な対象者として、中間発表会を行う。

平成16年12月に、3年次の研究のまとめの発表会を行う。

<http://www.tcn-catv.ne.jp/~kagomachi-ps/>

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	TTによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	算数	理科	
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善】	有	無		